

いそはま日記 2024(12)

ウミホタル

せんなん里海公園の海には、ウミホタルがすんでいます。ウミホタルは、エビやカニと同じ甲殻類で、大きさは3mmほどです（写真1）。写真では卵のようには見えますが、二枚貝のように殻2枚が左右で合さって、この中には内臓や触角、泳いだりエサを食べる時につかう「あし」が数本かくれています。また、黒く見えるのは眼です。ウミホタルは夜になると活動しますが、外敵におそわれたりした時などに発光液を体外に放出し、化学反応によりそれが青白く発光します。

毎年公園では、夜にこのウミホタルを専用の器具で採集して、発光する様子を観察するイベントを行っています。おもしろいのは、ウミホタルを集めるためのエサは、なんと「カニかまぼこ」。これがウミホタルの好物のようです。先日このイベントを行い、たくさんのウミホタルを採集することができました。観察した後、浜辺の波打ちぎわに放流した時の様子が、写真2です。発光の様子は銀河系宇宙を思わせ、参加者のみなさんの大歓声につつまれました。ウミホタルはとてもきれいな砂浜にしか生息しないことから、里海の海辺が大変良い環境に保たれている証拠なのです。



写真1



写真2



せんなん里海公園
Sennan Satoumi Park, OSAKA

管理事務所